



# IR NEWS

第46期  
事業のご報告  
平成21年4月1日～平成22年3月31日



## Contents

トップメッセージ / セグメント別事業概況 / 連結財務諸表 / 特集 / トピックス

サンコーテクノ株式会社



## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。ここに第46期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の業績をご報告します。第46期のサンコーテクノグループの連結売上高は131億43百万円(前期比11.6%減)、経常利益は1億75百万円(前期比44.4%減)、当期純利益は1億5百万円(前期実績マイナス31百万円)、年間配当金は、1株につき30円(前期実績40円)となりました。

また、平成22年6月25日に開催した定時株主総会と取締役会の決議を経て、洞下英人が代表取締役社長に就任いたしましたことをご報告申し上げます。新社長のもと、サンコーテクノグループは新たな体制で社業の発展へ努めてまいります。そして、これからも株主の皆様のご期待に沿うべく、変革を続けてまいりますので、ご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長  
洞下 英人

取締役会長  
洞下 実

## Q1 当期(46期)の業績および次期(47期)の見通しについてお聞かせください。

—昨年秋以降の世界的な金融不安や経済の悪化からの一部持ち直しの基調は見られるものの、当社の需要業界である建設業界の落ち込みは大きく、政権交代による公共投資の大幅な減少や民間の建設・設備投資意欲の減退など非常に厳しい状況に陥りました。

こうした中、既存製品に加え、「アンカー打込機」、「テクノスターAT-200」、「サイズミックコアドリル」、「集じんドリル」等の新製品を積極的に展開したほか、45期に特損(棚卸資産の除却損)を計上したため、46期は減収増益となりました。

47期の見通しについては、引き続き公共投資の減少や鋼材価格の上昇傾向といった外部環境の影響が大きいと考えております。しかしながら、リニューアル事業の需要が増えている点や環境分野でも需要拡大してきている事から、あと基礎アンカーやセンサー事業などの新商材にも期待しています。売上高は143億円、経常利益2億38百万円と増収増益を見込んでいます。

## Q2 新社長としての抱負をお聞かせください。

「企業は人なり」、人財育成こそ、経営トップの最も重要な使命のひとつと捉えています。当社の発展のためには人財力の向上は欠かせません。当社では45期よりサンコーテクノ人財像を掲げ、「創造・挑戦・共生」をテーマに啓蒙活動を展開しています。47期はこれをさらに推し進め、個人の目標管理に落とし込んでいきます。もちろん社員に求めるばかりではなく、社員が安心して働ける環境の整備とやりがいのある仕事の提供、また社員やその家族が安心して生活できる環境を約束することがトップの役割と考えています。

## 経営理念

奉仕は、真価の追求なり  
啓発は、未来の追求なり  
協調は、繁栄の追求なり

## 社 是

創り、活かし、満たす  
— 人のお役に立つために、  
創造提案型企业をめざす —

## 社 訓

感性と実践力を磨き、  
健康で豊かな環境づくりに貢献します

## 心の経営とは

私たちの会社が、いま最も大切にしているもの。

それは「心の経営」です。

心の経営とは、

「理想は高く 頭は低く 実践は足下から」を

基本姿勢とし、その実践を

「挨拶と清掃」に求めています。

こうした日々の実践を通して

活気あふれる職場づくりを目指しております。



「社団法人倫理研究所」の  
ライセンス認定企業プログラム  
「倫理17000」の第1号に認定

## Q3 新たな中期経営ビジョンについて お聞かせください。

2010年(47期)より新たに、2014年(51期)までの中期経営ビジョン、「安全・安心・環境をキーワードに事業領域を拡大し200億円企業となる」を打ち出しました。そして、そのビジョン達成の具体的な取り組みとして、「PLAN2014」を作成。それがチャレンジ35である3つの改革と5つの施策です。ヒューマン改革・システム改革・組織改革の3つの改革を達成するためには、何より「意識改革」が必要です。経営幹部はもちろんのこと、全社員が一丸となって現状を見直し、目標達成にむけた改革を遂行します。失敗を恐れず新しいことに果敢に挑戦し続ける企業文化と人財を創るために、集中と即行をもって実践する所存です。

## Q4 この数年を見通して 成長を牽引する分野は何でしょう?

中期経営ビジョンでも掲げている通り、今後の当社を担うキーワードは「安全・安心・環境」であり、それに関連した研究開発が重要です。具体的には47期は大きく2点の商材について研究開発を行ってまいります。1点は、あと基礎アンカー(特集参照)をはじめとした環境分野で特に太陽光発電関連のファスニング商材の開発です。そしてもう1点は、47期より新設したセンサー事業部が取り扱う、アルコール測定器の新製品開発です。既存の建設分野のファスニング事業だけでは、将来的に成長は見込めません。「安全・安心・環境」をキーワードに、積極的な研究開発やM&Aを展開してまいります。

## Q5 最後に、株主の皆さまへの メッセージをお願いします。

当社は、配当性向30%を目標に、安定した配当を継続するという配当政策を堅持してまいりました。45期はその政策に基づき、内部留保を取り崩す形で配当を維持してまいりました。しかしながら46期につきましては、引き続き当社を取り巻く環境は厳しく、内部留保も勘案し、一株当たり30円(前期実績40円)の配当とさせていただきます。内部留保金につきましては、企業価値向上のための投資に活用し、将来の事業展開を通じて、株主の皆さまに還元させていただきますので、ご理解賜りますようお願い致します。新たな中期経営ビジョンのもと全社一丸となって取り組んでまいります。今後も温かく見守っていただきますよう、何卒宜しく願い申し上げます。



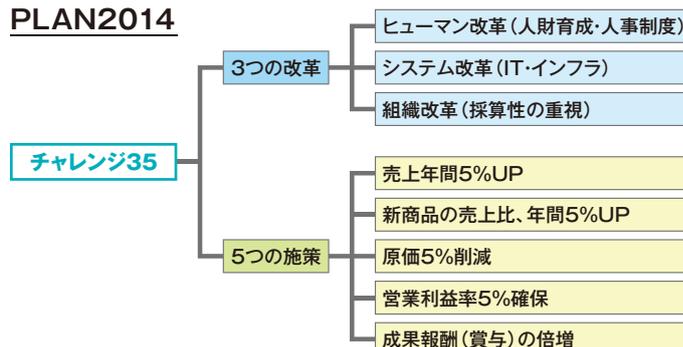
## 中期経営ビジョン <2010-2014>

安全・安心・環境をキーワードに  
事業領域を拡大し200億円企業となる

## 47期経営スローガン

選択・集中・即行で  
チャレンジ35を達成します

## PLAN2014



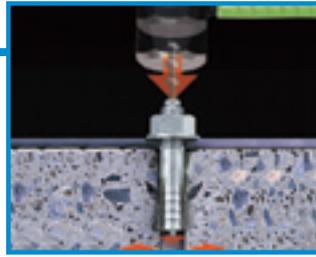
# セグメント別事業概況

※各事業及び製品群間の売上高を含んでいるため、合計額は連結売上高と一致していません。

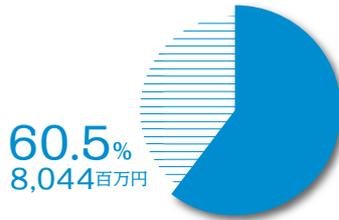
第46期連結累計期間（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

## ファスニング事業

あと施工アンカー、建設資材の留め具であるファスナーなど締結関連の建設資材を製造・販売しています。



【事業概況】売上高は8,044百万円（前連結会計年度比13.0%減）、売上総利益は2,448百万円（同10.5%減）となりました。耐震需要の高まりにより、接着系アンカーが好調であったほか、「アンカー打込機」発売による需要喚起に努めましたが、総体的な建設市場の低迷をカバーできず、減収減益となりました。

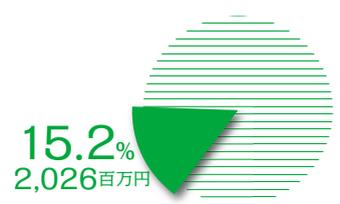


## D&D事業

アンカーの用途に応じたコンクリート用各種ドリルや、(株)IKK製の電動油圧工具を製造・販売しています。

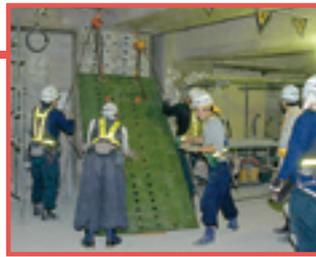


【事業概況】売上高は2,026百万円（前連結会計年度比24.7%減）、売上総利益は583百万円（同28.8%減）となりました。新製品販売は好調でしたが、既存製品であるドリルビットの販売が落ち込んだほか、(株)IKKの電動油圧工具製品の国内・海外の販売不振が非常に大きく響き、減収減益となりました。

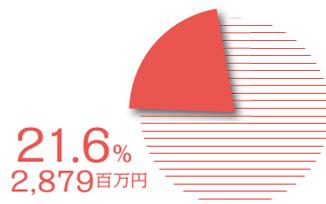


## リニューアル事業

あと施工アンカーをはじめとする締結技術を応用し、各種構造物を守る工法を開発、耐震補強等に活用しています。

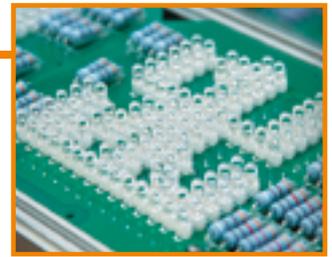


【事業概況】売上高は2,879百万円（前連結会計年度比11.4%増）、売上総利益は646百万円（同4.0%増）となりました。特に、西日本地区の工事受注が好調であった他、FRP関連商材の販売や防水・外壁補修の好調な受注状況により、増収増益となりました。

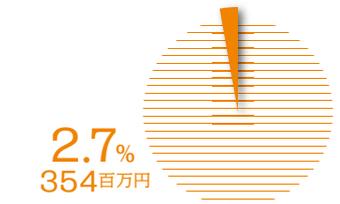


## 新事業

車両の表示板用や工事・事故の表示板用、測定器や観測機向けなどの電子プリント基板の一貫生産・販売を行っています。



【事業概況】売上高は354百万円（前連結会計年度比25.7%減）、売上総利益は53百万円（同43.6%減）となりました。測定器のメンテナンスサービス（保守点検業務など）は順調に推移しましたが、設備・車両関連製品の受注が大きく低迷し、減収減益となりました。



## 財務ハイライト

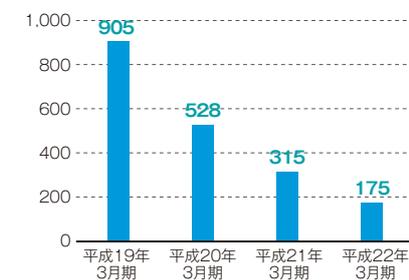
### 売上高

(単位:百万円)



### 経常利益

(単位:百万円)



### 当期純利益

(単位:百万円)



### 1株当たり純利益

(単位:円)



### 総資産

(単位:百万円)



### 自己資本比率

(単位:%)



※平成19年4月1日付で1株につき2株の株式分割を行っております。

# 連結財務諸表

※百万円未満を切り捨てています。

## 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期末	前期末
	平成22年3月31日	平成21年3月31日
<b>資産の部</b>		
流動資産	7,225	7,141
固定資産	6,174	6,372
有形固定資産	5,181	5,338
無形固定資産	50	64
投資その他の資産	941	969
資産合計	13,399	13,513
<b>負債の部</b>		
流動負債	5,539	5,241
固定負債	1,368	1,771
負債合計	6,908	7,013
<b>純資産の部</b>		
株主資本	6,415	6,389
資本金	768	768
資本剰余金	581	581
利益剰余金	5,309	5,283
自己株式	△243	△243
評価・換算差額等	△58	△107
その他有価証券評価差額金	△15	△20
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	△43	△86
少数株主持分	134	218
純資産合計	6,490	6,499
負債純資産合計	13,399	13,513
<b>1株当たり純資産(円)</b>	<b>3,123.89</b>	<b>3,086.96</b>

## 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで
売上高	13,143	14,872
売上原価	9,426	10,601
売上総利益	3,716	4,271
販売費及び一般管理費	3,541	4,006
営業利益	175	264
営業外収益	163	235
営業外費用	162	183
経常利益	175	315
特別利益	34	1
特別損失	16	203
税金等調整前当期純利益	193	113
法人税、住民税及び事業税	117	119
法人税等調整額	△35	6
少数株主利益	7	19
当期純利益又は純損失(△)	105	△31
<b>1株当たり当期純利益又は純損失(△)(円)</b>	<b>51.63</b>	<b>△15.55</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	872	533
投資活動によるキャッシュ・フロー	△217	△455
財務活動によるキャッシュ・フロー	△179	△317
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	△63
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	482	△304
現金及び現金同等物の期首残高	729	1,033
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△3	—
現金及び現金同等物の期末残高	1,207	729

## 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成21年3月31日 残高	768	581	5,283	△243	6,389	△20	0	△86	△107	218	6,499
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△81		△81						△81
当期純利益			105		105						105
連結範囲の変動			2		2						2
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						5	—	43	48	△83	△34
連結会計年度中の変動額合計	—	—	26	—	26	5	—	43	48	△83	△8
平成22年3月31日 残高	768	581	5,309	△243	6,415	△15	0	△43	△58	134	6,490

# 特集

## 事業領域拡大への第1弾

# 太陽光発電システム施工用アンカー 「あと基礎アンカー」を展開



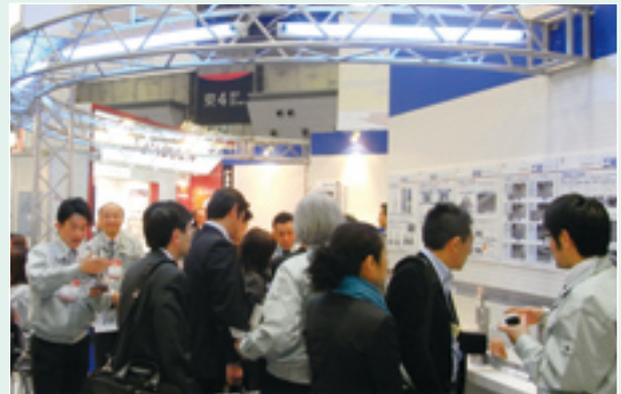
常務取締役 洞下 正人

### 「あと基礎アンカー」の開発経緯

現在、太陽光発電システム（以下・太陽光パネル）が大きな注目を集めています。当社は以前から屋上外断熱防水工法「テクパネル」を取り扱っており、当初「あと基礎アンカー」はテクパネルに太陽光パネルを設置するための付加価値として考えていました。しかし市場調査を進めるうちに「あと基礎アンカー」単体でのニーズが多くあることがわかりました。それは太陽光パネルをビルの屋上（陸屋根）に設置する際、従来のコンクリート基礎ではその重さから建物への負担も大きく、また架台のレイアウトが自由に出来ない等の問題があったからです。そこで「コンクリート基礎に代わる金属性基礎」をコンセプトに既存防水にも対応した製品開発に着手しました。開発にあたり多くの難題に直面しましたが、これまで培ってきたアンカーメーカーとしての経験と技術力を活かし「大幅な軽量化や工程・工期の短縮」を実現することができました。



あと基礎アンカー施工例



第1回太陽光発電システム施工展(東京ビッグサイト)

### 今後の展開

「あと基礎アンカー」は3月に開催された「第1回太陽光発電システム施工展」で初公開し、多くの反響をいただきました。現在のところ公共施設（主に学校）を中心に多くの引き合いを頂いています。各現場にあわせた設計提案や基礎データの提供を行うことで、採用物件も増えてきています。今後は公共施設以外にも、商業ビルの省エネ化に伴う太陽光パネルの設置など需要は増えていくものと思われます。また、「あと基礎アンカー」をお客様により安心して使っていただける様、防水性の観点からも既存防水メーカーとの連携強化が拡販に向けた戦略の要と考えています。

### 事業領域の拡大にむけて

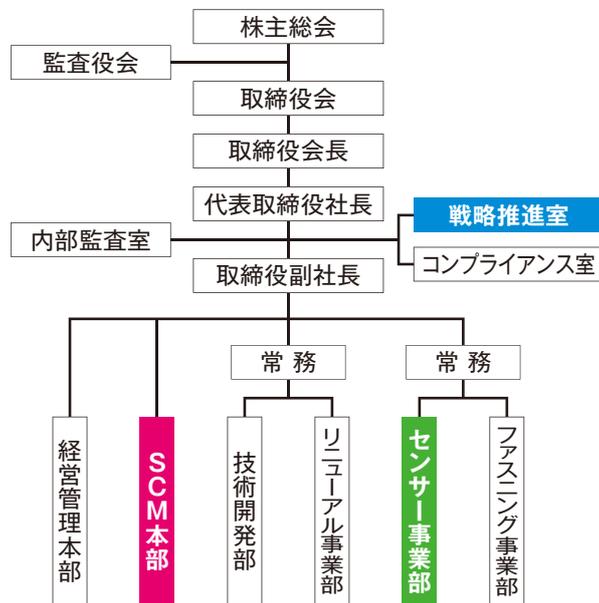
中期経営ビジョンに掲げている「安全・安心・環境をキーワードに事業領域を拡大」するにあたり、この「あと基礎アンカー」は“新分野へのアプローチのきっかけ”と捉えています。建物のオーナーなど、既存の商流ではキャッチすることの出来なかったニーズ・ウォンツを汲み取り、それを事業に繋げていくことが重要です。この製品を情報収集の火種と位置づけ、事業領域の拡大に向け邁進していく所存です。



あと基礎アンカー AKG-175

# 1 新部署紹介

## サンコーテクノ組織図



●**戦略推進室** 今後のサンコーテクノグループの戦略について検討し、実行に移すことが役割です。特に、よりグループとしてのシナジーが発揮できるよう、グループ各社の戦略を集約し、1つにまとめあげることが当部署の使命といえます。

●**SCM本部** 「モノの流れ」を管理し円滑に進めることがSCM(サプライチェーンマネジメント)本部の役割です。47期は、①商品の入在庫・管理保管・発送を行う「物流」②製品の仕様・性能が所定の水準に達していることを判断する「品質保証」の2つを主幹業務として取り組みます。

●**センサー事業部** 業務用呼気アルコール測定器や高性能CO測定器などの各種測定器を取り扱います。特にアルコール測定器は、飲酒運転を撲滅し、安心して暮らせる社会(環境)作りに貢献できるよう、運送会社をはじめタクシー、バス、鉄道各社へ全国的な営業活動を展開してまいります。



アルコール測定器

# 2 広島事業所新設

2010年1月26日、好調なリニューアル事業の更なる拡大を図るため、西日本のリニューアル事業の拠点として広島事業所を新設しました。47期も耐震補強工事など、リニューアル事業を積極的に展開してまいります。



### 広島事業所

〒731-5128

広島県広島市佐伯区五日市中央5丁目2-50

# 3 「ディスクアンカー」

## 前田建設の技術証明書に明記

前田建設工業(株)、東洋建設(株)と共同開発した、既存の建物の外壁にプレキャスト部材を取り付ける耐震補強工法「MaSTER FRAME構法」が、(財)日本建築総合研究所で発行する建築技術性能証明書を取得しました。同構法で当社は耐震補強用アンカーの開発に携わり、証明書には「サンコーテクノ(株)製のディスクアンカーを用いる」旨が明記されました。第三者機関による審査証明書の取得により学校施設や集合住宅、事務所などの現場で同構法が採用されることが期待されます。



## アンケート実施についてのお願い

当社では、本誌「IR NEWS」を株主の皆さまとサンコーテクノをつなぐコミュニケーションツールとして活用してまいりたいと考えております。同封の「アンケートはがき」にご記入の上、ポストに投函してください(切手は不要です)。株主の皆さまのご回答およびご意見を今後の経営および「IR NEWS」の誌面作成に活かしてまいりたいと思います。

株主の皆さまのご協力をお願い申し上げます。(誠に勝手ながらアンケートの締切りを平成22年10月31日着までとさせていただきます)

### 個人情報の取扱いについて

「アンケートはがき」にご記入いただきました個人情報につきましては、その使用目的を次の3つの事項に限定し、他の用途に使用することはございません。また、お寄せいただきました個人情報につきましては、厳重に管理いたします。

- アンケートご回答の分析
- 粗品の送付
- 個人株主さま宛IR活動に関するお知らせの送付

## 会社概要

(平成22年3月31日現在)

商号 サンコーテクノ株式会社  
設立 1964年5月15日  
資本金 768百万円  
社員数 331名  
所在地 千葉県流山市東初石六丁目183番1  
TEL 04-7178-5535  
FAX 04-7178-5557  
取引銀行 みずほ銀行  
りそな銀行  
商工組合中央金庫  
千葉銀行  
事業内容 建設資材(あと施工アンカー・ドリル・ファスナー等)、複合材、防水材、各種測定器の企画開発・製造・販売・施工及び輸出入

## 役員

(平成22年6月25日現在)

取締役会長	洞下 実
代表取締役社長	洞下 英人
取締役副社長	佐藤 静男
常務取締役	洞下 正人
常務取締役	八谷 剛行
取締役	上石 茂行
取締役	増田 誠次
取締役	佐藤 靖
監査役	甲斐 常敏
監査役	鈴木 英雄
監査役	嶋 善光

## 関連会社

連結子会社 SANKO FASTEM(THAILAND)LTD.  
三幸商事顧問股份有限公司  
株式会社IKK  
アイエスエム・インタナショナル株式会社  
株式会社スイコー  
持分法適用関連会社 株式会社サンオー  
持分法非適用関連会社 株式会社イーオプティマイズ

## 株式の状況

(平成22年3月31日現在)

発行可能株式総数…………… 3,500,000株  
発行済株式の総数…………… 2,186,352株  
株主数…………… 694名

## 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
洞下 実	246	11.29
東京中小企業投資育成株式会社	180	8.23
有限会社サンワールド	168	7.68
サンコーテクノ社員持株会	155	7.13
濱中ナット販売株式会社	131	6.01
武藤 昭二	93	4.27
新井 栄	68	3.13
洞下 照夫	53	2.45
株式会社みずほ銀行	44	2.03
佐久間 菊子	41	1.91

(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。  
2. 当社は自己株式(151千株)を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

## サンコーテクノ株式会社

〒270-0114 千葉県流山市東初石六丁目183番1

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 事業年度末日の翌日から3か月以内  
基準日 3月31日  
配当基準日 3月31日、9月30日(中間配当を行う場合)  
1単元の株式数 100株  
株主名簿管理人 株式会社みずほ信託銀行  
特別口座の口座管理機関 株式会社みずほ信託銀行  
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
株式会社みずほ信託銀行 本店証券代行部  
公告の方法 電子公告により当社ホームページ(<http://www.sanko-techno.co.jp/>)に掲載いたします。ただし、事故、その他やむを得ない事由によって電子公告をする事ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

## お問い合わせ先

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話お問い合わせ先	お取引の証券会社になります。	0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 みずほインベスター証券株式会社 本店及び全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

## Web Information

当社のホームページでは株主・投資家の皆さまに対して、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示をしております。当社をより理解していただくためにも、ぜひアクセスをお願いいたします。

<http://www.sanko-techno.co.jp/>



TOP画面

IR情報画面



この冊子は環境保全のため、大豆インキとFSC認証紙を使用しています。